

## 第1回人材部会の委員発言要旨

### 兼子委員

- ・ 管内高校生の就職先等の概数として、3,000人の卒業者のうち2,000人が管外へ出て行く。高卒で管外へ出て行く2,000人のうち500人程度を何とか地域に残せないかアイデアを出していきたい。
- ・ 管外から優秀な人材を引っ張ってくるということを、市役所などの協力も得ながら進められれば良いと感じている。
- ・ 卒業後に一度就職したが比較的短期間で転職を希望する「第二新卒者」について、企業側とうまくつながられるシステムが作れると良い。

### 仙北谷委員

- ・ 管外から来た学生を、卒業後、如何に地域に残ってもらえるようにするかが課題。
- ・ 管内での就職先をどう確保するか、また、仮に離職した場合でも、管内に残りたければ引き続き地域で就職先を確保できるような仕組みがあれば良い。

### 小田委員

- ・ 3年くらい前から大工育成のために若い社員を入れているが、昨日まで高校生だった者が社会人となってもすぐには何もできない。それでも雇わないわけにはいかない。
- ・ 高校生の最後の数カ月間だけでも、社会人としての勉強をする場・機会が欲しい。

### 金尾委員

- ・ 何よりもまず「人材の確保」が重要。そもそも人材が確保できないと育てようがない。
- ・ 学生は「十勝が今後、産業が育つ地域であるか」ということをよく見ている。10~20年後に十勝の産業が元気であるという確信がないと、就職先として十勝を選択しない。
- ・ 「フードバレーとかち」のコンセプトをうまく発信し、学生に対して十勝の元気を前面に出して欲しい。フードバレーとかちの展開が十勝のビジネスの可能性を広げるものであることをPRして欲しい。

### 北村委員

- ・ 地域での就職について、Uターン、Iターン就職を如何に取り込むかということが重要。いきなり十勝に来て、すぐに働く場所があるわけではない。例えば、半年間のインターンシップ制度とU・Iターン希望者を組み合わせた「十勝型インターンシップ」を作れないか。
- ・ 社会人になりきれしていない人、また、経済的に十分な教育を受けられないまま社会人になった人の離職率高いと感じる。そういった人たちを社会に定着させるためには、学生と社会人との「プレ社会人スクール」といった場が必要ではないか。また、会社員が学ぶ場所が全然ないと感じるので、ビジネススクールなどの能力アップを図れる場所があると良い。

### 貴戸委員

- ・ 採用する側としては、如何に自分の企業をPRして良い人材を集めるかが課題であるため、自分の企業の取り組みを広く知らしめるようにしている。人材を供給する側である学校としても、学校でどんなことを教えているかなどを企業に対して知らせたい。
- ・ 中小・零細企業では、若い人材を育てようと思っても教育のために人材・コストを割くことができない。行政・研究機関等も含め、地域で協力して社会人を育てていく体制が必要。
- ・ 人材育成のために社内でコスト・労力をどれだけかけられるかが課題。

## 菅野委員

- 高卒で地域社会に出る者が多いように感じるが、特に人材不足と言われている介護業界について、専門に学んだ経験がないまま現場に入ると「イメージと違った」などと言って離職してしまうケースが多いように感じる。
- 教育という観点で考えれば、知識や技術の習得に加え、特に「就労の意識」をきちんと学生に身につけさせることが重要。そうしないと、どのような職についても長続きしないということになってしまう。
- コア学園では、現在、介護分野に就職した卒業生のその後について、「離職していないか」「離職していた場合にはその理由」について調査を始めている。そういった調査で把握したことを、次の教育・指導の中で活かしていきたい。